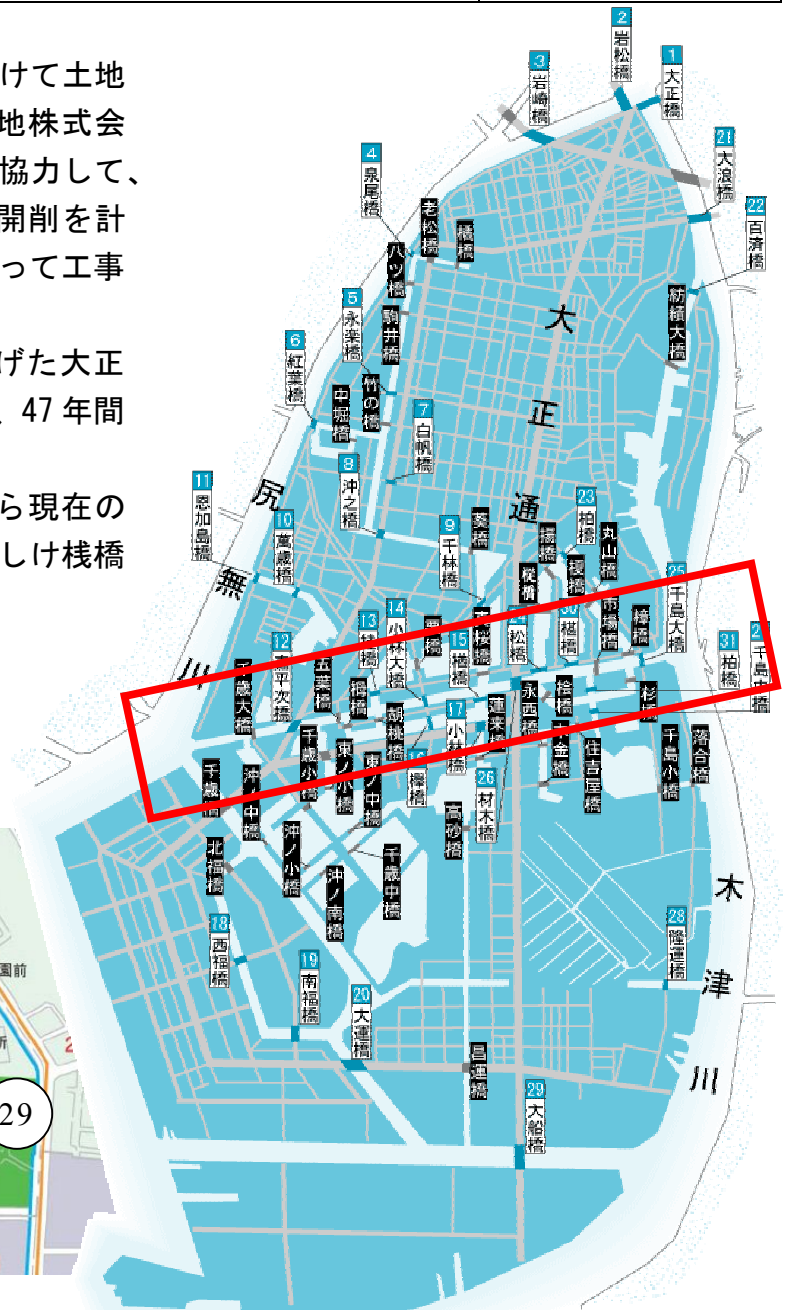


千島町から小林町、新千歳町へかけて土地を所有していた芝川一族の千島土地株式会社が、大阪木材市場土地株式会社と協力して、木津川と尻無川を結ぶ大正運河の開削を計画し、大正8年から岩田土地も加わって工事をはじめ、大正12年6月に完成。

その後の木材業の繁栄を歌い上げた大正運河も、昭和45年に埋立を完了し、47年間の幕を閉じた。

その位置は千島公園の南部分から現在の大正内港第1突堤の北側（現在のはしけ棧橋あたり）を通過していた。



水管橋が大正運河の通っていた面影を残す